

『把転向™』 ハテンコウ

特許出願済

把持して、反転して、裏向ける

名称の語源でもある破天荒（はてんこう）とは、故事成語のひとつ。

意味は・・・

「今まで人がなし得なかったことを、初めて行うこと」

「前人未到の境地を切り開くこと」

特徴

薄い品物を表裏ひっくり返すには、「つかみ直す」ことが通例となっております。

1. つかんだ物を一度置いて、つかみ直す。
2. 反転装置に置いて反転させ、つかみ直す。

「把転向」の構造であれば、一度つかんだら反転してそのまま置くことができます。

使用例

『把転向』と「協働ロボット」を組み合わせると・・・

オセロゲームの「表裏の返し」



将棋の「成り」



様々なメーカーのロボットとの接続アダプターも設計・製作いたします。



愛知県の機械設計アイデア商品留学なら株式会社カレイド

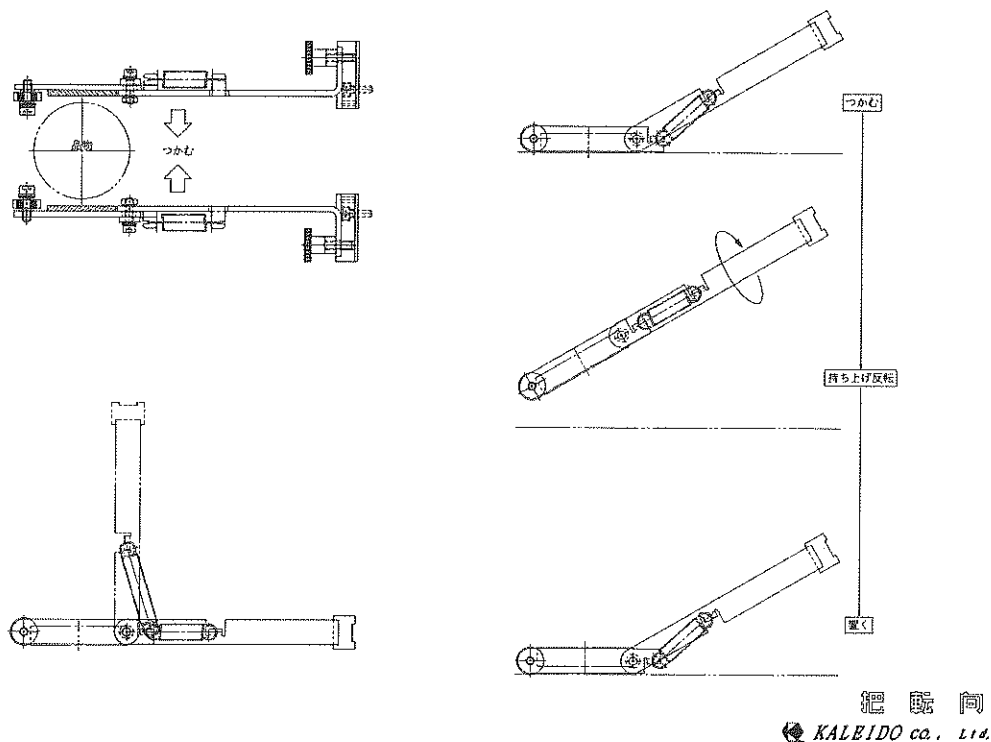
☎0562-44-3048

電話受付時間 月～金 (8:30～17:00)

〒474-0026 愛知県大府市松山町5-63 中本ビル2F東

URL <http://www.kaleido7.com>

「把転向」の原理



時代背景

1. 人手不足の解消
2. 生産性の向上

これまでの産業ロボットは自動車など、比較的大きな製造ラインを柵で囲い、安全を確保するため人の作業と分離した状況で固定的に使われてきました。

そのため、人との作業が必要な現場には不向きでした。

しかし、技術革新とともにロボットの小型化が図られ、

また法規制の緩和により、柵なしでの人とロボットの共同作業が可能となりました。

今後、人との共同作業を前提とした新たなロボット「協働ロボット」が、続々と誕生してくると感じております。

「把転向」開発のきっかけ

製造業のテクノロジーは、大半が効率化のために使われ、合理性や生産性を求められます。

一方、癒しのためのテクノロジーは、アナログ的なカラクリが必要で、アナログとテクノロジーの組み合わせで人々に安らぎを与えます。

動力を持った方が仕事としては効率的ですが、動力源があれば設計出来てあたりまえ。見た目にも大きな装置はナンセンス。品物のサイズ相応のバランスの良い大きさで、設計・開発に取り組み、試作を重ねて特許を出願しました。

株式会社カレイドの「企業の核と軸」によって生まれた製品です。

「把転向」開発の源

今の社会では、既成概念というものが大勢を占めていることを実感しており、前例のない事はしない。よって、新しい発想が思いつかない。

「言われたことを確実に遂行することが最大の美德」

「効率を高めるために余計なことはしなくて良い」

という雰囲気で、独創的な考えや意見を出しづらい空気です。

さまざまな設備の設計も、これまでの物を良くするという作業は感じるのですが、

「いっちょ、やってやるか!」という雰囲気は感じません。

カラクリを創ることは、設計を好きで始めた人の目指すところだと思います。

新しい発想は「遊び心」から生まれ、ボーっとする時間が「創造性」を生む惰性に流され変化と挑戦がなければ、脳を無気力にして滅入らせ弱らせます。脳をイキイキさせるには、挑戦と変化が必要で、好奇心を持つと変化します。創造力は好奇心から生まれます。

